

調査の概要

● 社会生活基本調査とは

(1) 調査目的

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査し、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的とし、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施している。

(2) 調査対象

全国の世帯から無作為に選定した約8万3千世帯に居住する10歳以上の世帯員
石川県では約1,500世帯に居住する10歳以上の世帯員を対象とした。

(3) 調査時期

平成23年10月20日現在で実施した。

● 生活行動に関する結果（生活行動編）

自由時間等における過去1年間における主な活動

- 1 学習・自己啓発・訓練
- 2 スポーツ
- 3 趣味・娯楽
- 4 ボランティア活動
- 5 旅行・娯楽

<用語の解説>

行動者数・・・過去1年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数
（※石川県の10歳以上の推定人口は、1,028千人）

行動者率・・・10歳以上人口に占める行動者数の割合（%）

平均行動日数・・・行動者について平均した過去1年間の行動日数

● 生活時間に関する結果（生活時間編）

- 1 1日の生活時間の配分
- 2 各種属性別にみた生活時間
- 3 主な行動の平均時間

<用語の解説>

1次活動・・・睡眠、食事など生理的に必要な活動

- 1 睡眠
- 2 身の回りの用事
- 3 食事

2次活動・・・ 仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動

- 4 通 勤・通 学
- 5 仕 事（収入を伴う仕事）
- 6 学 業（学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動）
- 7 家 事
- 8 介 護・看 護（入浴・屋内の移動・食事等の手助け）
- 9 育 児
- 10 買い物

3次活動・・・ 1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動

- 11 移 動（通勤・通学を除く）
- 12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌
- 13 休 養・くつろぎ
- 14 学 習・自己啓発・訓練（学業以外）
- 15 趣 味・娛 楽
- 16 スポーツ
- 17 ボランティア活動・社会奉仕活動
- 18 交 際・つきあい
- 19 受 診・療 養
- 20 その他

※ 総平均・・・ 該当する種類の行動をしなかった人を含む全員についての平均

※ この結果は、総務省統計局が公表した結果の抜粋です。詳しい結果内容や全国の結果につきましては、総務省統計局HP社会生活基本調査のページをご覧ください。

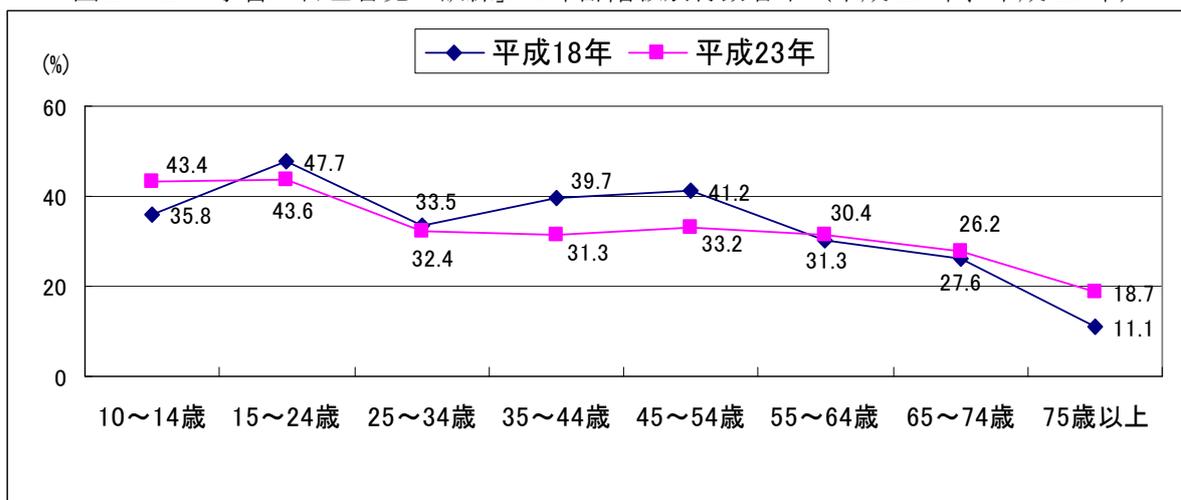
<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/index.htm>

I 生活行動編

1 学習・自己啓発・訓練

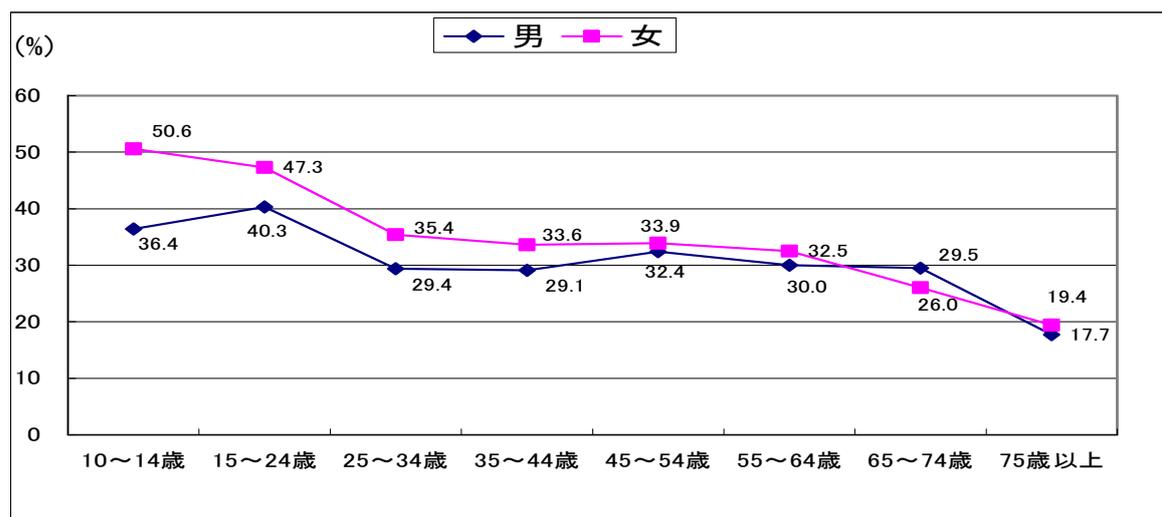
過去1年間（平成22年10月20日～平成23年10月19日。以下同じ）に「学習・自己啓発・訓練」を行った県民（10歳以上）の数（行動者数。以下同じ）は326千人で、10歳以上の人口に占める割合（行動者率。以下同じ）は、31.7%（全国35.2%）で平成18年と比べると1.9ポイント低下している。

図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率（平成18年、平成23年）



行動者数を男女別にみると、男性が152千人、女性は175千人となっており、行動者率は男性が30.5%（全国34.3%）、女性が32.9%（同36.1%）となっており、女性のほうが、2.4ポイント高くなっている。

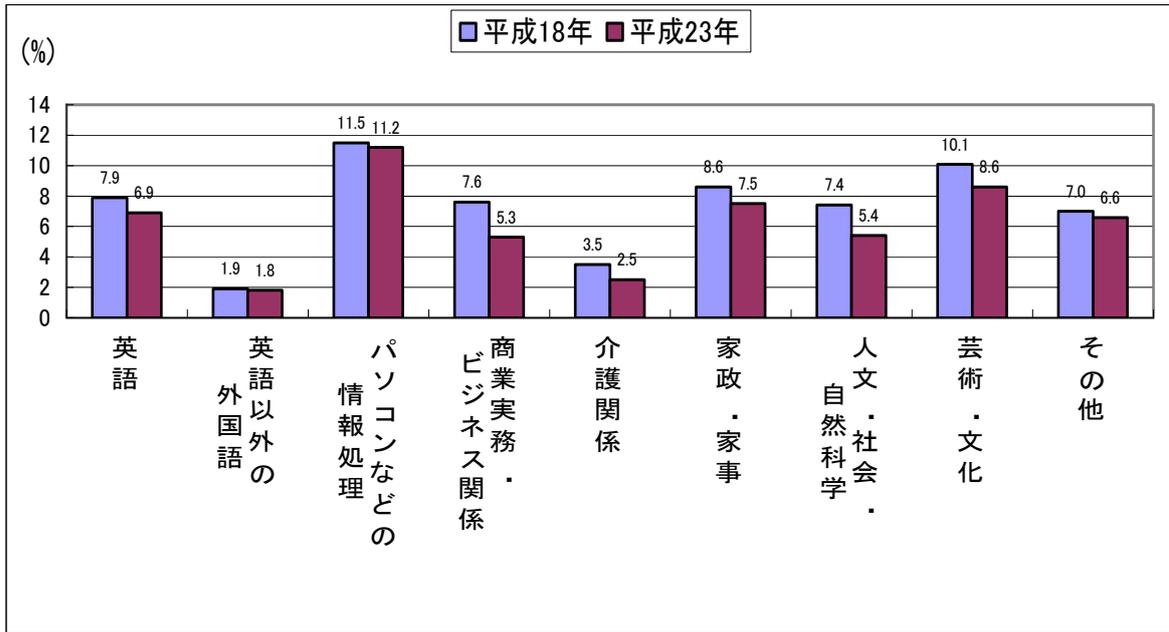
図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の男女、年齢階級別行動者率



行動者率を種類別でみると、「パソコンなどの情報処理」が11.2%と最も高く、「芸術・文化」が8.6%と続いている。

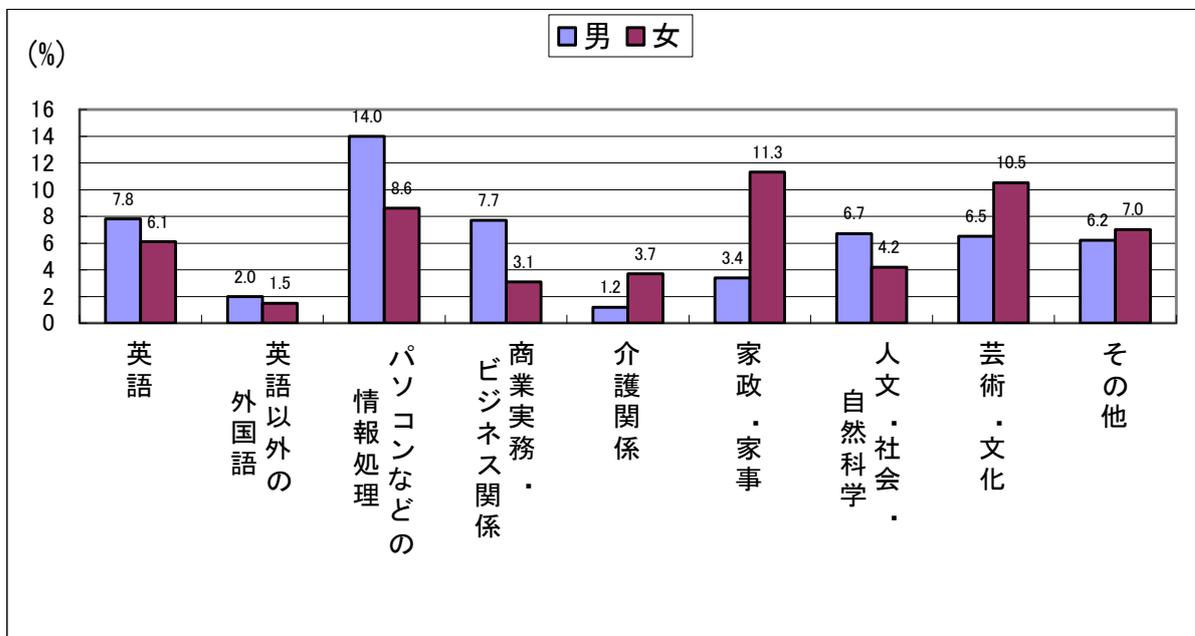
これを、平成18年と比べると「商業実務・ビジネス関係」が2.3ポイント、「人文・社会・自然科学」が2.0ポイント減など全ての項目で低下している。

図1-3 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（平成18年、平成23年）



種類・男女別にみると男性は「パソコンなどの情報処理」が14.0%と最も高く、続いて「英語」が7.8%、女性は「家政・家事」が11.3%と最も高く、続いて「芸術・文化」が10.5%となっている。

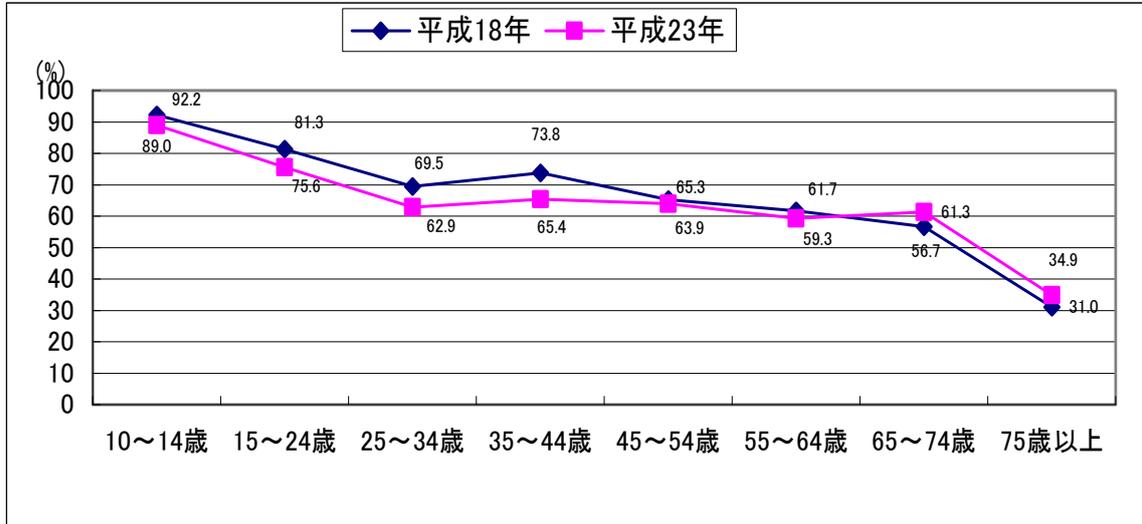
図1-4 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女別行動者率



2 スポーツ

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った県民（10歳以上）の数は639千人で、10歳以上の人口に占める割合は、62.1%（全国63.0%）で平成18年と比べると3.3ポイント低下している。

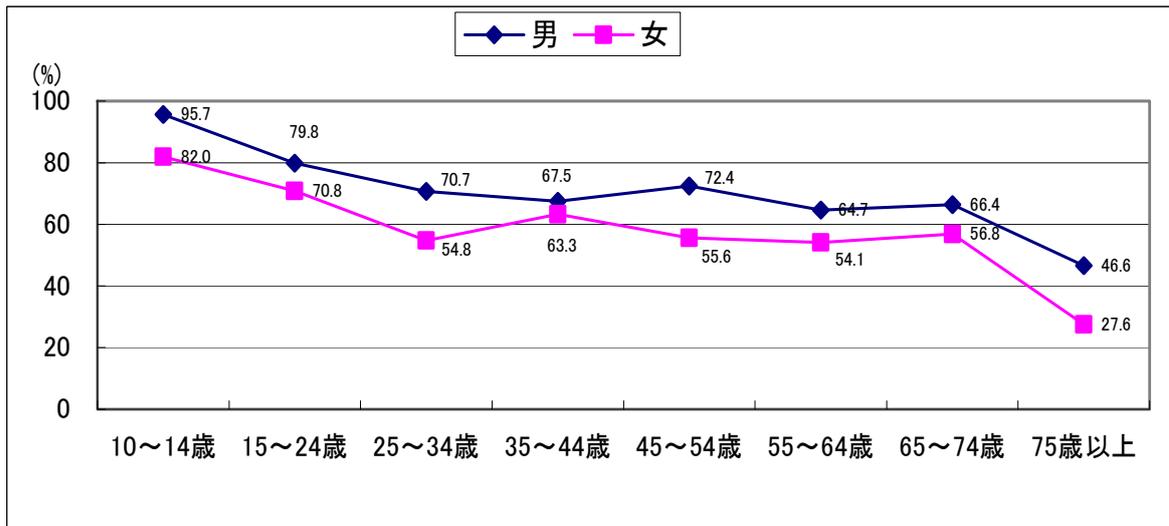
図2-1 「スポーツ」の年齢階級別行動者率（平成18年、平成23年）



行動者数を男女別にみると男性が344千人、女性は295千人となっており、行動者率は男性が69.1%（全国67.9%）、女性が55.5%（同58.3%）となっており、男性のほうが女性より、13.6ポイント高く、すべての年齢階級で男性が女性を上回っている。

また、男女とも10～14歳が最も高く、年齢が高くなるにつれて低下している。

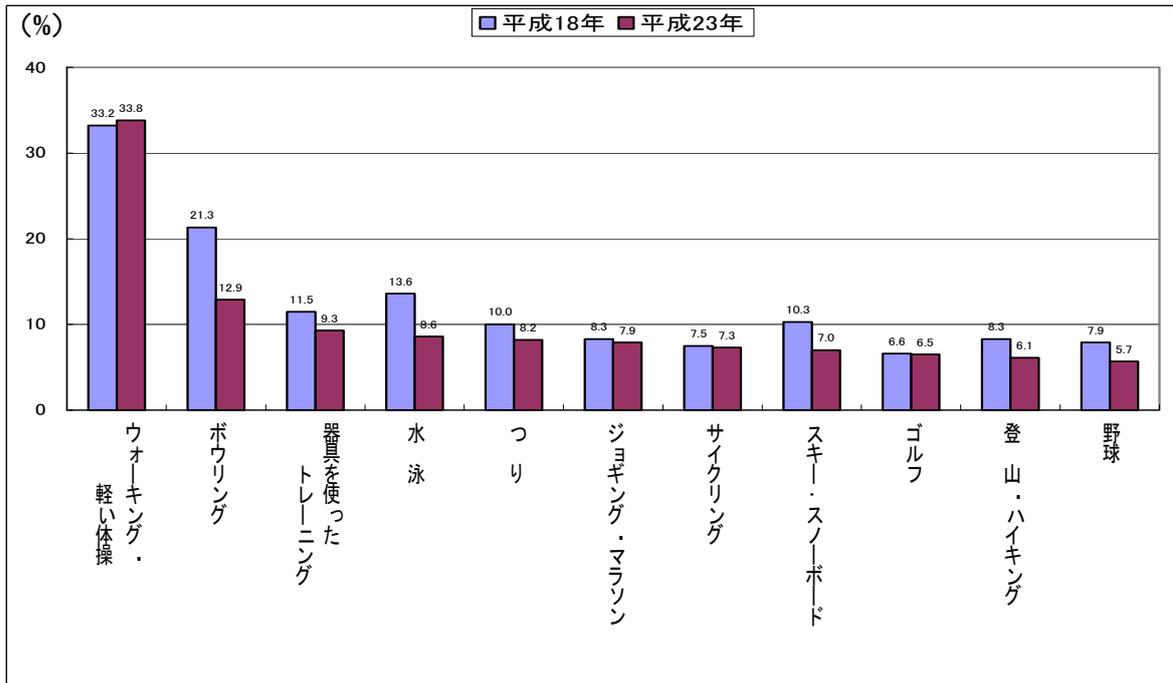
図2-2 「スポーツ」の男女、年齢階級別行動者率



主な種類別行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が33.8%と最も高く、次いで「ボーリング」12.9%となっている。

これを平成18年と比べると「ウォーキング・軽い体操」が0.6ポイントと上昇したが、「ボーリング」が8.4ポイント減少するなど、それ以外の項目で低下している。

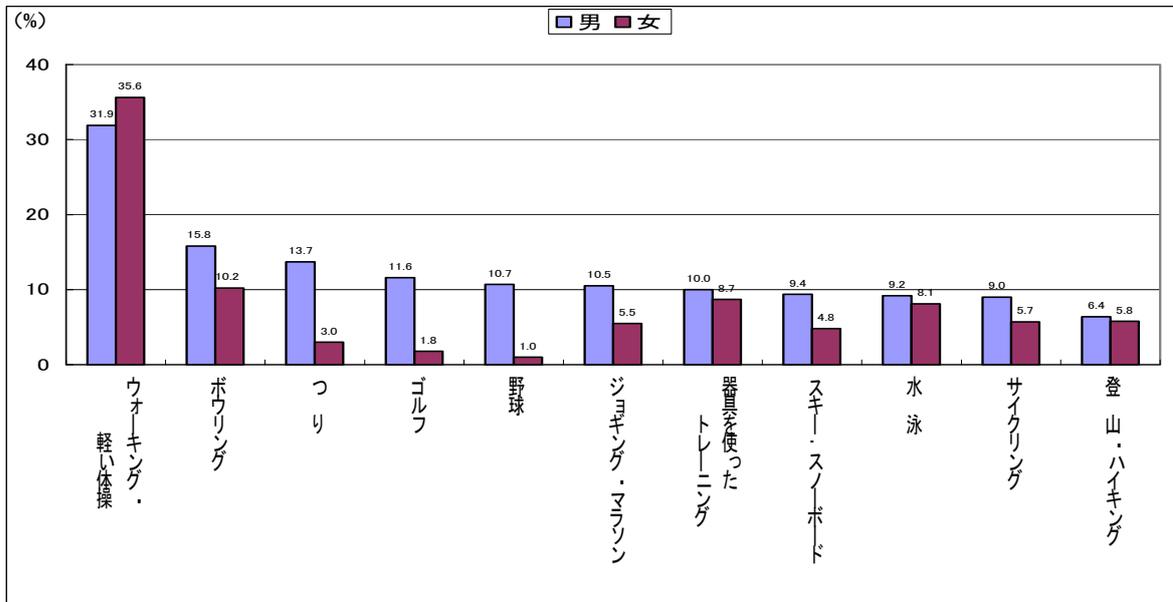
図 2-3 「スポーツ」の種類別行動者率（平成 18 年、平成 23 年）



注) 「スポーツ」のうち主な項目を掲載

種類・男女別にみると男女とも「ウォーキング・軽い体操」、「ボウリング」と続き、以下男性は「つり」、「ゴルフ」、「野球」と続き、女性は「器具を使ったトレーニング」、「水泳」となっている。

図 2-4 「スポーツ」の種類、男女別行動者率



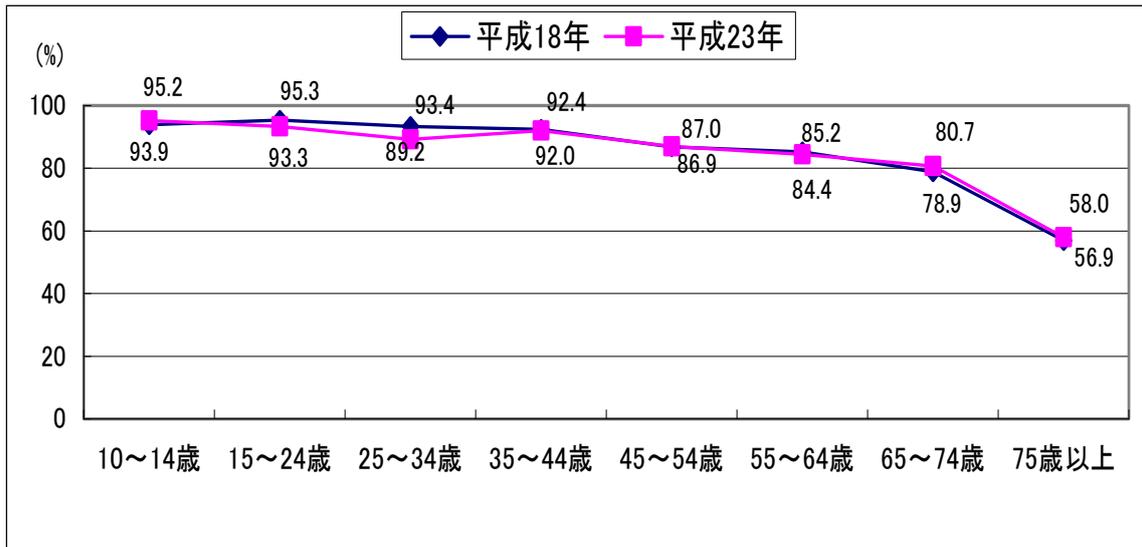
注) 「スポーツ」のうち主な項目を掲載

3 趣味・娯楽

過去1年間の「趣味・娯楽」の行動者数（10歳以上）は870千人で、10歳以上の人口に占める割合は、84.6%（全国84.8%）で平成18年と比べると1.1ポイント低下している。

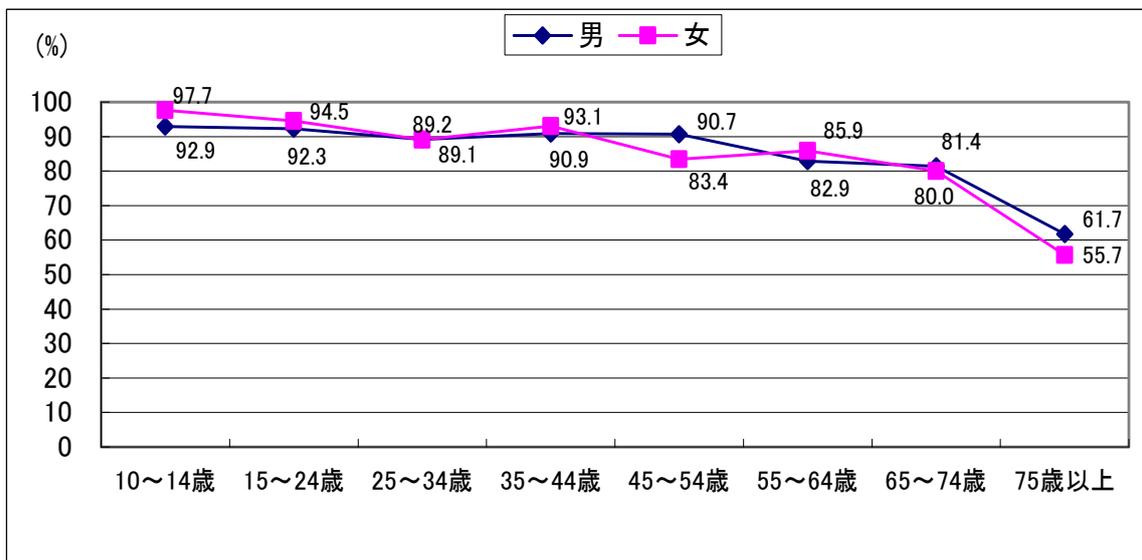
県民に造詣深いとされる芸術・伝統文化の項目では、華道2.8%（全国2.0%）全国7位、茶道2.2%（同1.5%）同3位、音楽鑑賞（クラシック）9.9%（同8.6%）同5位、美術鑑賞18.7%（同16.5%）同6位と前回と比べてポイント、順位を下げたが依然高い水準となっている。

図3-1 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率（平成18年、平成23年）



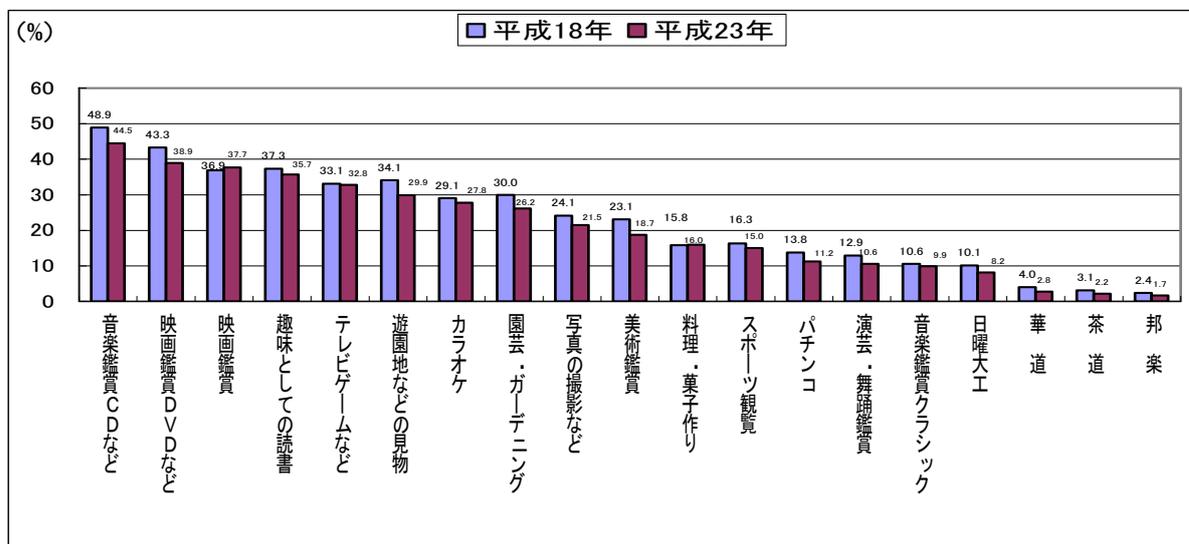
行動者数を男女別にみると、男性が426千人、女性が443千人となっており、行動者率は男性が85.7%（全国84.8%）、女性は83.5%（全国84.9%）となっており、男性は25～34歳、45～54歳、65歳以上の年齢階級で女性より高くなっている。

図3-2 「趣味・娯楽」の男女、年齢階級別行動者率



主な種類別行動者率をみると、「CDなどによる音楽鑑賞」が44.5%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が38.9%、「映画鑑賞」が37.7%となっている。これを平成18年と比べると「映画鑑賞」が0.8ポイント、「音楽会（ポピュラー）」、「趣味としての料理・菓子作り」が0.2ポイントと上昇したが、それ以外の項目で「CDなどによる音楽鑑賞」が4.4ポイント減少するなど低下している。

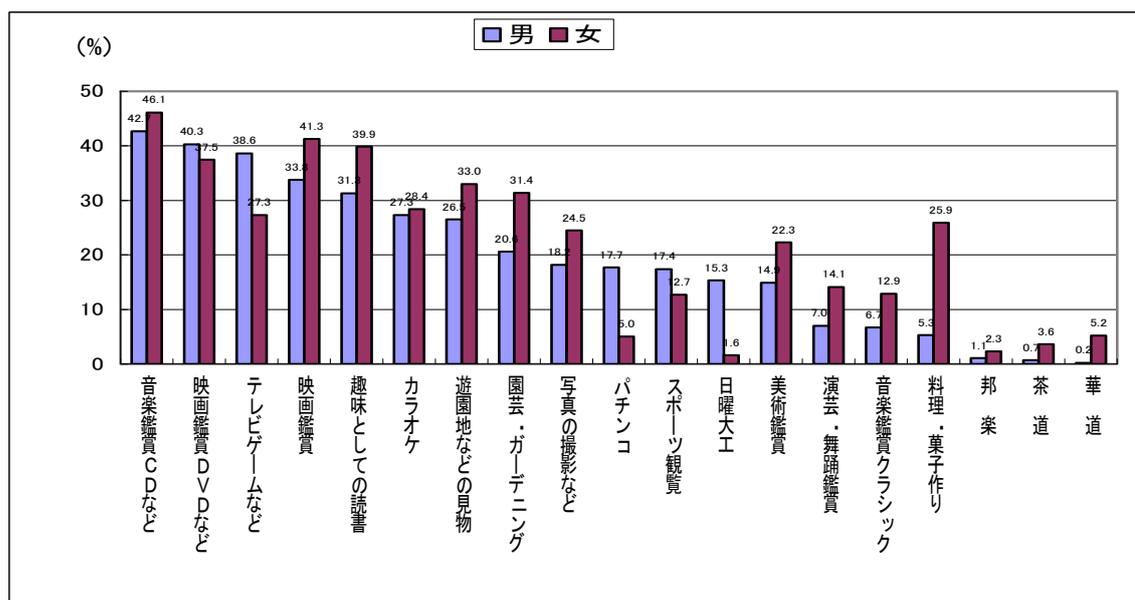
図3-3 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成18年、平成23年）



注) 「趣味・娯楽」のうち主な項目を掲載

種類を男女別にみると男女とも「CDなどによる音楽鑑賞」、「DVDなどによる映画鑑賞」、「趣味としての読書」、「カラオケ」、「遊園地、動植物園、水族館などの見物」などで高くなっている。男性は「日曜大工」で13.7ポイント、「テレビゲーム、パソコンゲーム」で11.3ポイント女性より高くなっており、女性は「趣味としての料理・菓子作り」で20.6ポイント、「園芸・庭いじり・ガーデニング」で10.8ポイント男性より高くなっている。

図3-4 「趣味・娯楽」の種類、男女別行動者率

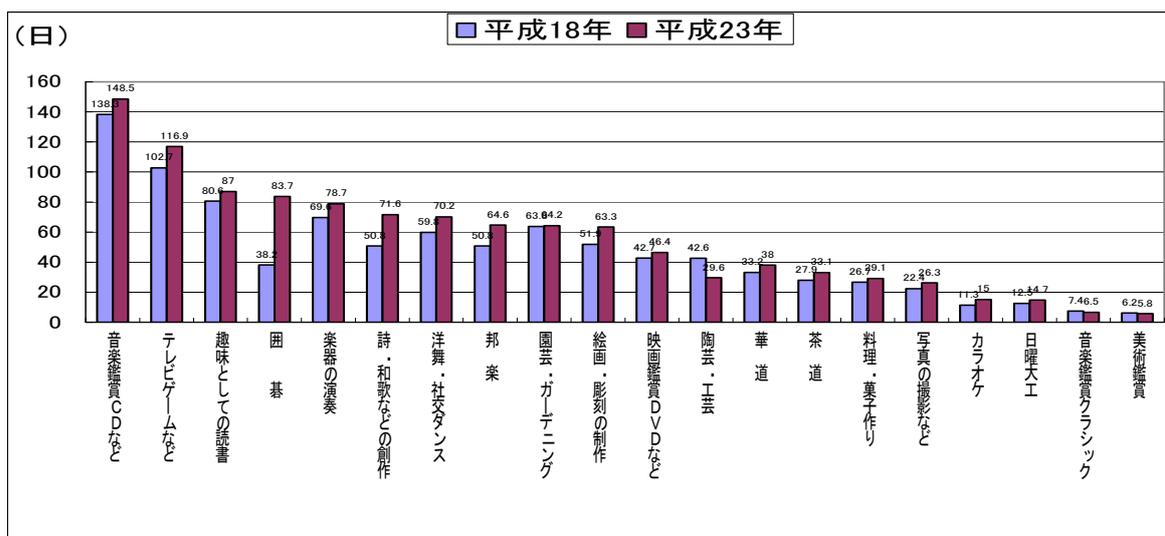


注) 「趣味・娯楽」のうち主な項目を掲載

行動者数について平均した過去1年間の行動日数（平均行動日数。以下同じ）を種類別にみると、「CDなどによる音楽鑑賞」が148.5日と最も多く、次いで「テレビゲーム、パソコンゲーム」、「趣味としての読書」、「囲碁」、「楽器の演奏」となっており、「遊園地・動植物園・水族館などの見学」が4.5日と最も低くなっている。

平成18年と比べると、「囲碁」が45.5日増加、「詩・和歌・俳句・小説などの創作」が20.8日増加、「邦楽(民謡・日本古来の音楽を含む。)」が13.8日増加、「茶道」が5.2日増加、「華道」が4.8日増加などとなり、「陶芸・工芸」が13.0日減少、「音楽鑑賞(クラシック)」が0.9日減少となっている。

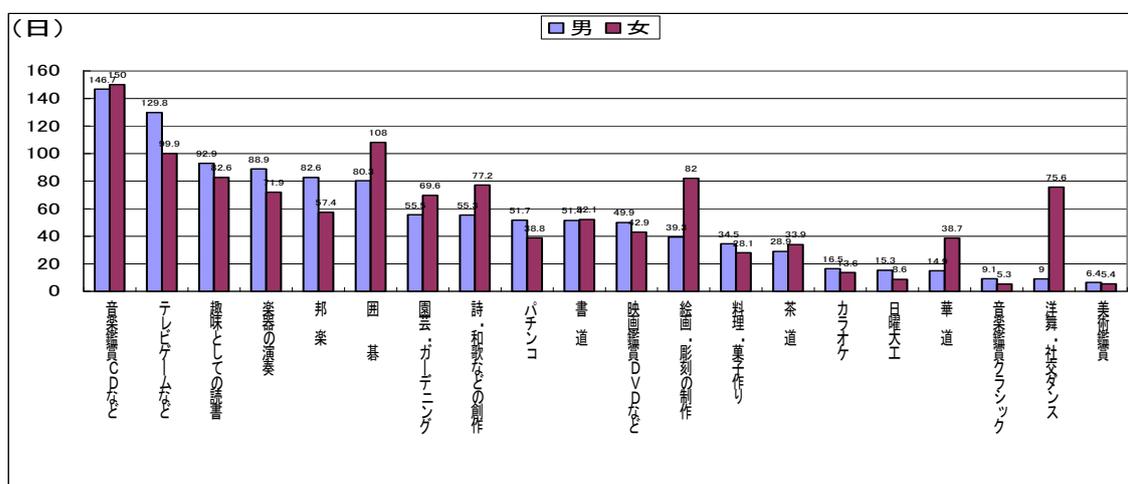
図3-5 「趣味・娯楽」の種類別行動者日数（平成18年、平成23年）



注)「趣味・娯楽」のうち主な項目を掲載

男女別に行動日数をみると、男性・女性とも「CDなどによる音楽鑑賞」が最も多く、以下男性は「テレビゲーム、パソコンゲーム」、「趣味としての読書」、「楽器の演奏」、「邦楽(民謡・日本古来の音楽を含む。)」と続いている。女性は「囲碁」、「テレビゲーム、パソコンゲーム」、「趣味としての読書」、「絵画・彫刻の制作」、「詩・和歌・俳句・小説などの創作」となっている。

図3-6 「趣味・娯楽」の男女、種類別行動者日数

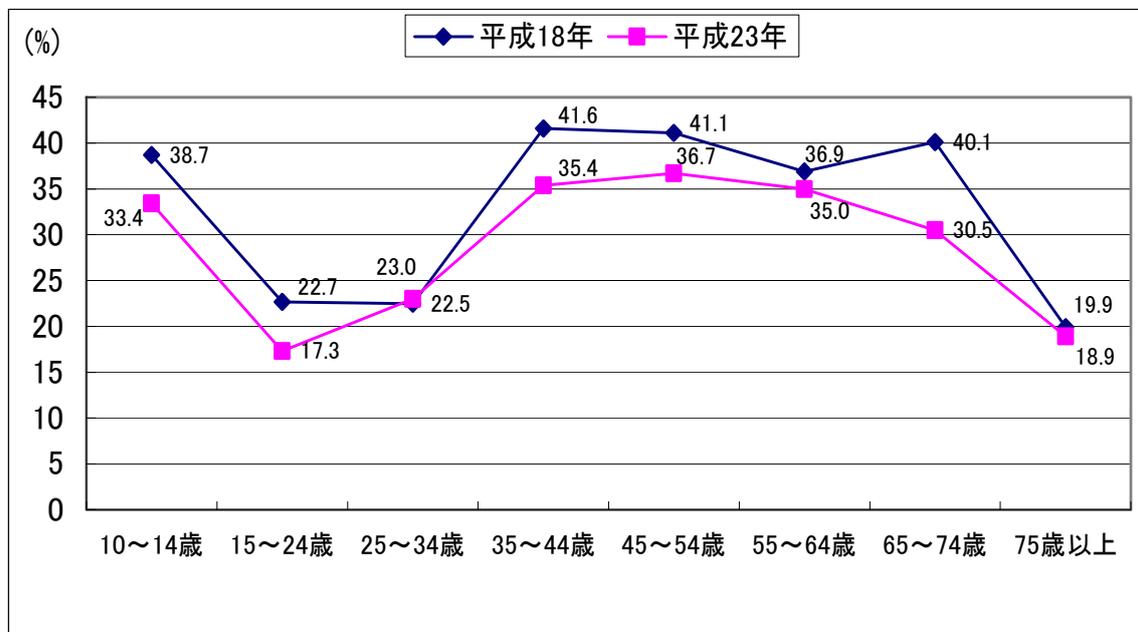


注)「趣味・娯楽」のうち主な項目を掲載

4 ボランティア活動

過去1年間に何らかの、「ボランティア活動」を行った県民（10歳以上）は301千人で、10歳以上の人口に占める割合は、29.2%（全国26.3%）で平成18年と比べると3.8ポイント低下したなかで「災害に関係した活動」は0.9%から2.8%と1.9ポイント上昇した。

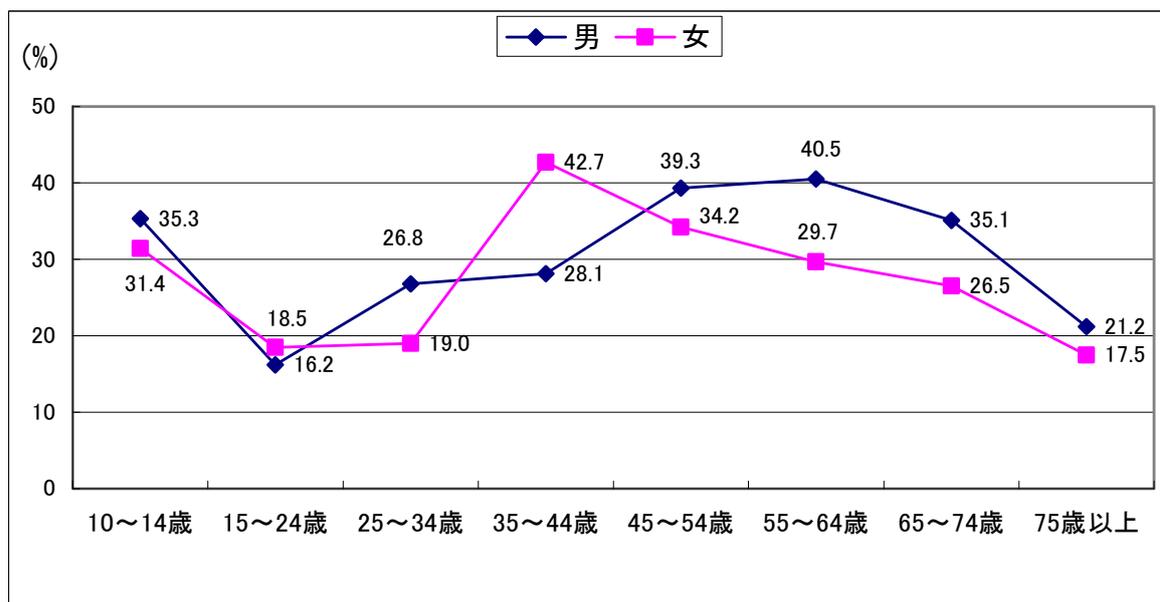
図4-1 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率（平成18年、平成23年）



行動者数を男女別にみると、男性が153千人、女性が148千人となっており、行動者率は、男性が30.7%、（全国24.5%）、女性は27.8%、（全国27.9%）となっており、全国と比較して男性の行動者率は高い水準となっている。

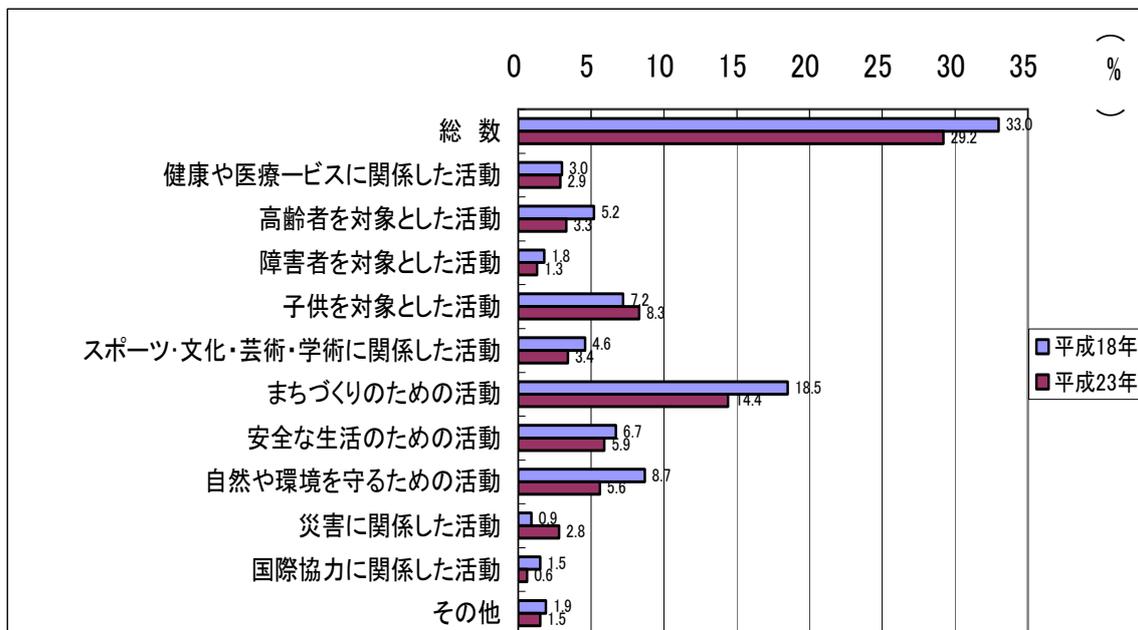
年齢階級別でみると、男性では55～64歳で最も高い40.5%となっており、女性では35～44歳で最も高い42.7%となっている。

図4-2 「ボランティア活動」男女、年齢階級別の行動者率



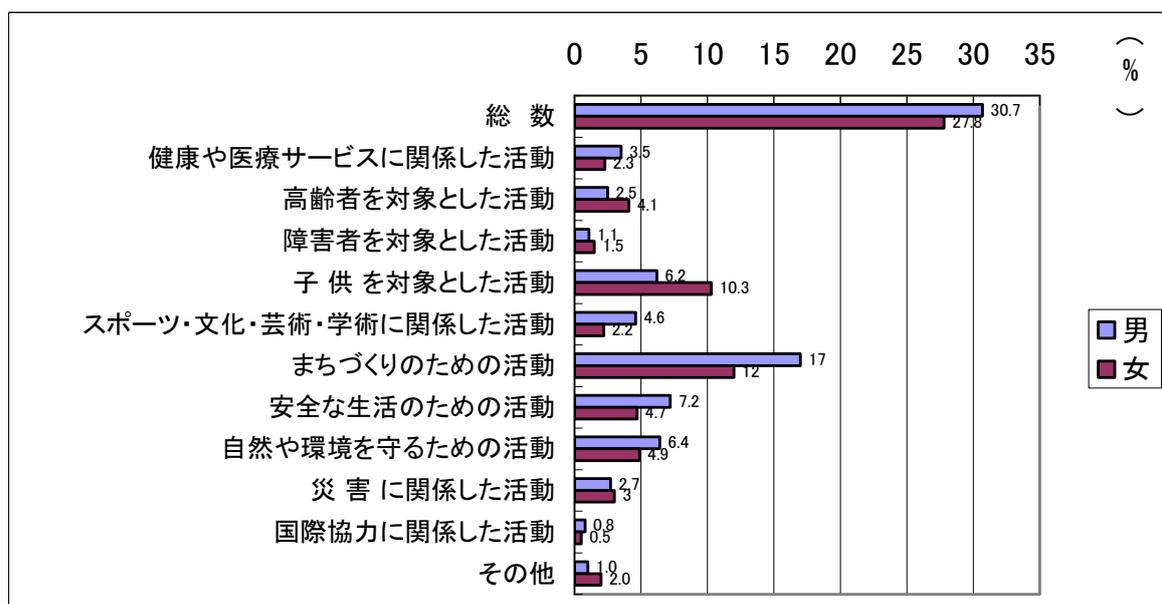
種類別にみると、「まちづくりのための活動」が14.4%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が8.3%、「安全な生活のための活動」、「自然や環境を守るための活動」と続いている。平成18年と比べると「災害に関係した活動」が1.9ポイント、「子供を対象とした活動」が1.1ポイント上昇したが、それ以外の項目で「まちづくりのための活動」が4.1ポイント減少するなど低下している。

図4-3 「ボランティア活動」の種類別行動者率（平成18年、平成23年）



男女別にみると、男女とも「まちづくりのための活動」が最も高く、以下男性は、「安全な生活のための活動」が7.2%、女性は「子供を対象とした活動」が10.3%となっている。

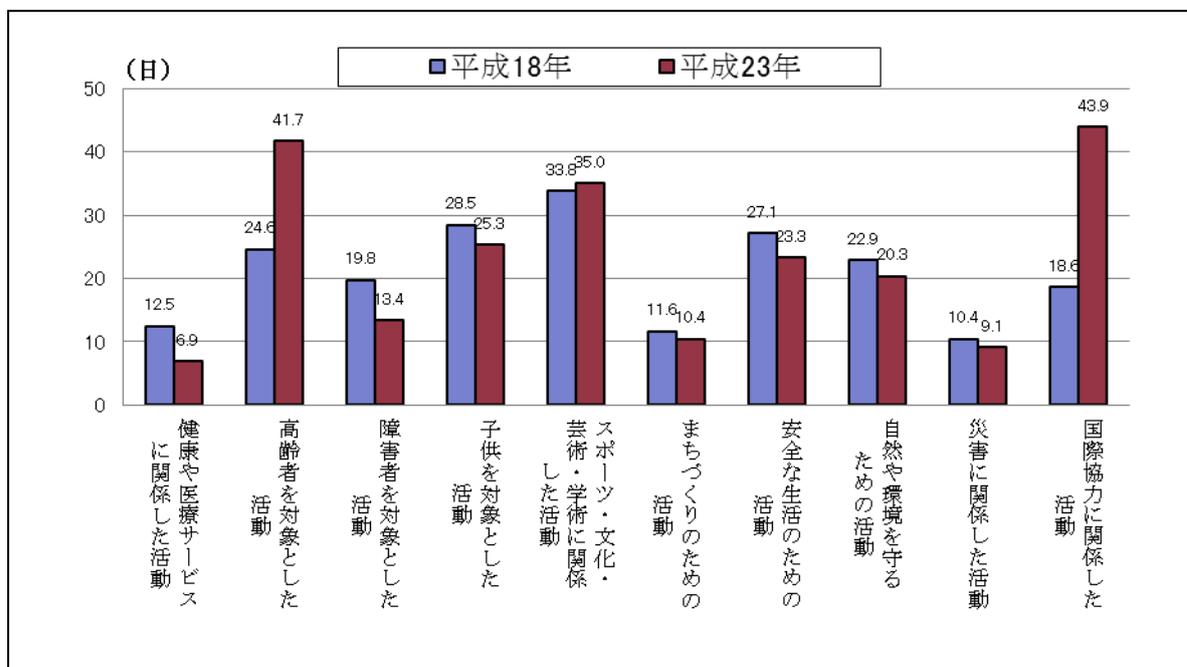
図4-4 「ボランティア活動」の種類、男女別行動者率



行動者数について平均行動日数を種類別にみると、「国際協力に関係した活動」が43.9日と最も多く、次いで「高齢者を対象とした活動」が41.7日となっており、「健康や医療サービスに関係した活動」が6.9日と最も低くなっている。

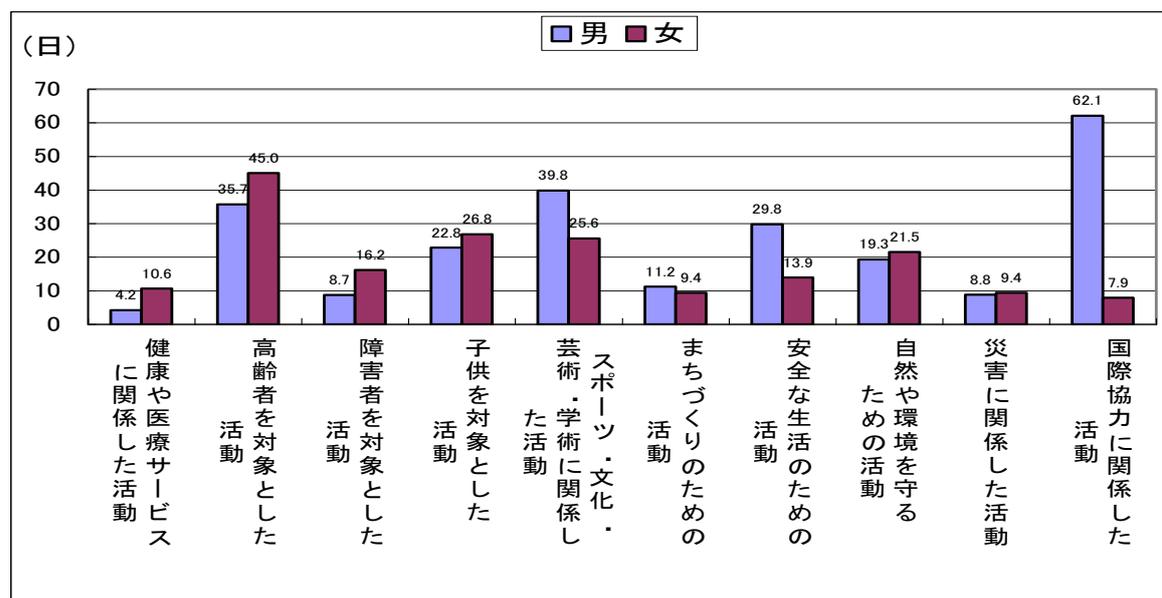
平成18年と比べると、「国際協力に関係した活動」が25.3日増加、「高齢者を対象とした活動」が17.1日増加などとなり「障害者を対象とした活動」が6.4日減少、「健康や医療サービスに関係した活動」が5.6日減少などとなっている。

図4-5 「ボランティア活動」の種類別行動者日数（平成18年、平成23年）



男女別に行動日数をみてみると、男性は「国際協力に関係した活動」が62.1日と最も多く、次いで「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が39.8日となっており、女性は「高齢者を対象とした活動」が45.0日、次いで「子供を対象とした活動」26.8日となっている。

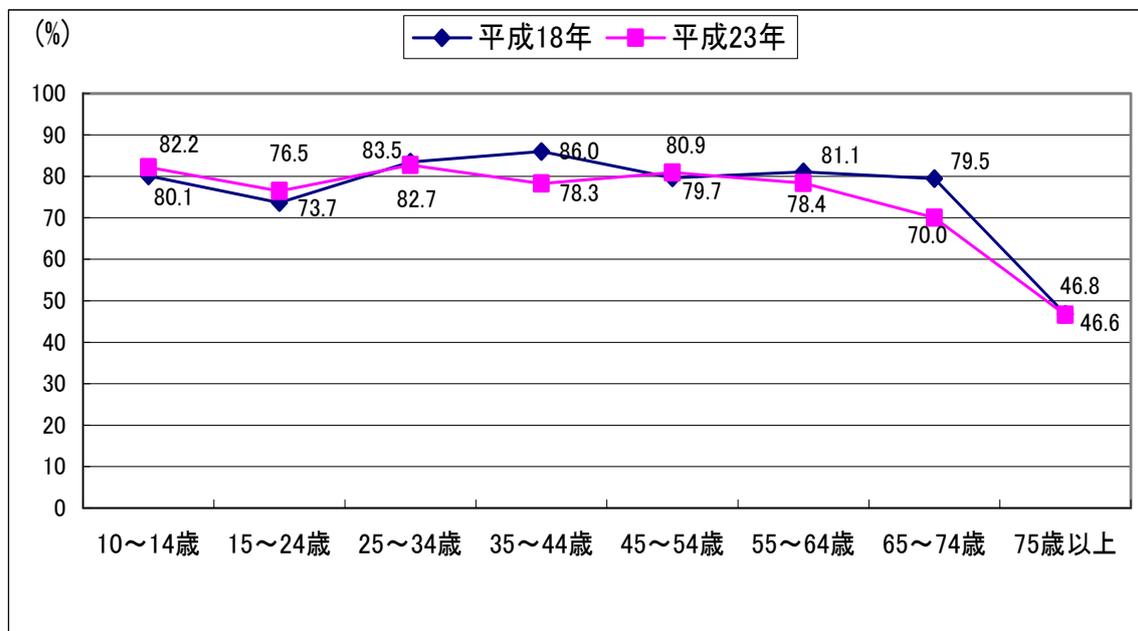
図4-6 「ボランティア活動」の男女、種類別行動者日数



5 旅行・行楽

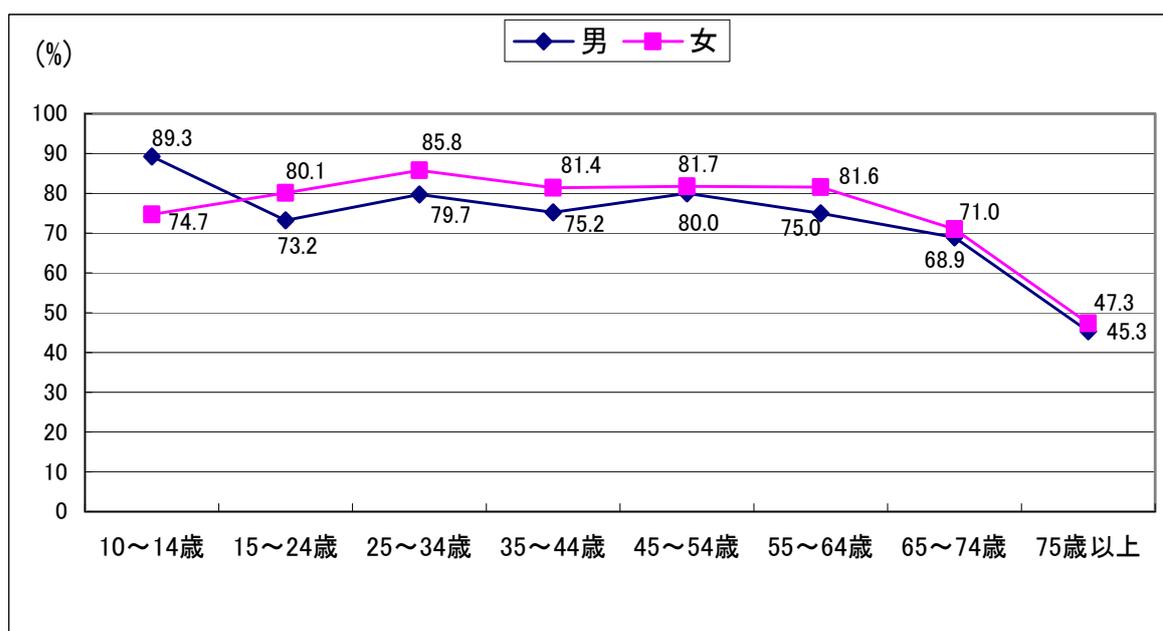
過去1年間に「旅行・行楽」を行った県民（10歳以上）は765千人で、10歳以上の人口に占める割合は、74.4%（全国73.2%）で平成18年と比べると2.9ポイント低下している。

図5-1 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率（平成18年、平成23年）



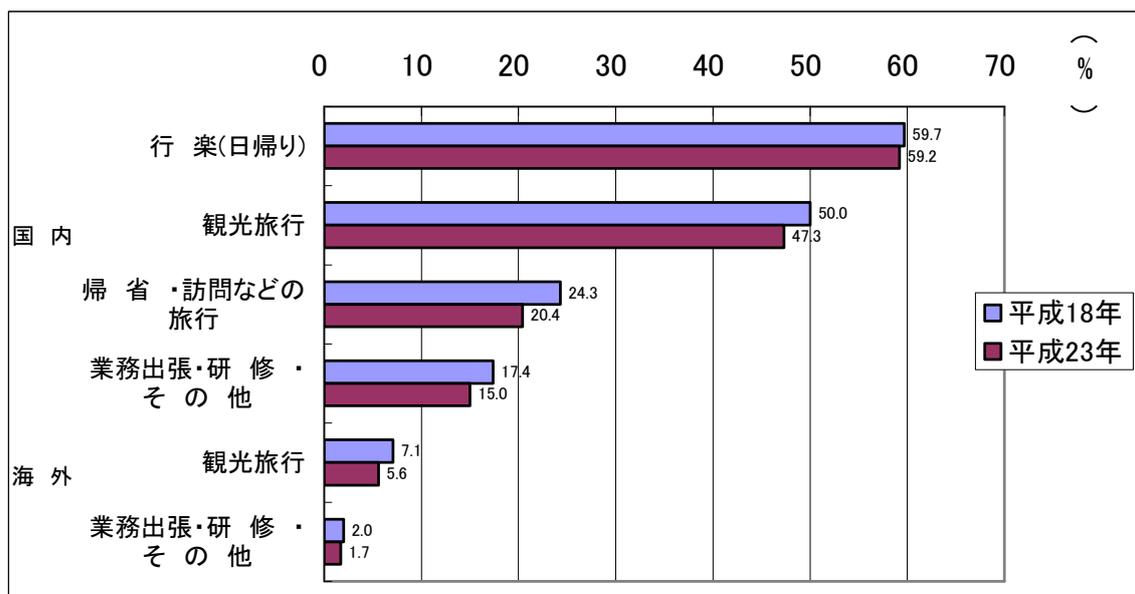
行動者数を男女別にみると、男性が365千人、女性は400千人となっており、行動者率は男性が73.4%（全国71.1%）、女性が75.3%（全国75.3%）となっており、女性のほうが、1.9ポイント高くなっている

図5-2 「旅行・行楽」の男女、年齢階級別行動者率



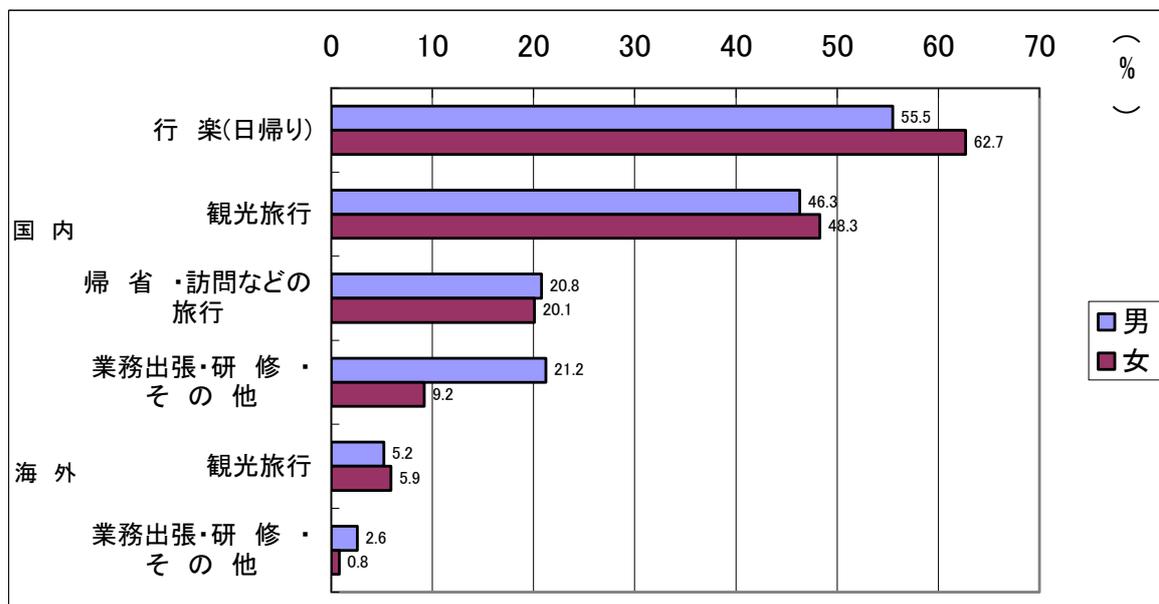
種類別にみると、「行楽（日帰り）」が59.2%、観光旅行では、国内が47.3%、海外が5.6%となっている。これを平成18年と比べると全ての項目で低下している。

図5-3 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成18年、平成23年）



種類を男女別にみると、「業務出張・研修・その他」、「帰省・訪問などの旅行」を除き女性が男性より高くなっている。

図5-4 「旅行・行楽」の種類、男女別行動者率



Ⅱ生活時間編

1 1日の生活時間

(1) 概観 1次活動時間及び3次活動時間が増加し、2次活動時間が減少

10歳以上の県民について1日の生活時間をみると、1次活動時間が10時間37分、2次活動時間が6時間54分、3次活動時間が6時間28分となっている。

前回調査（平成18年）と比べると、1次活動は7分の増加、2次活動は23分の減少、3次活動は15分の増加となっている。

これを男女別にみると、男性は1次活動が4分の増加、2次活動時間が27分の減少、3次活動時間が23分の増加、女性は1次活動が11分の増加、2次活動時間が19分の減少、3次活動時間は7分の増加となっている。

表1 男女、行動の種類別生活時間（平成18年、23年）一週全体（時間、分）

		平成18年			平成23年			増減		
		1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動
石川 県	総数	10.30	7.17	6.13	10.37	6.54	6.28	0.07	-0.23	0.15
	男	10.24	7.14	6.22	10.28	6.47	6.45	0.04	-0.27	0.23
	女	10.36	7.20	6.05	10.47	7.01	6.12	0.11	-0.19	0.07
全 国	総数	10.37	7.00	6.23	10.40	6.53	6.27	0.03	-0.07	0.04
	男	10.31	6.58	6.31	10.33	6.49	6.38	0.02	-0.09	0.07
	女	10.42	7.03	6.15	10.46	6.57	6.16	0.04	-0.06	0.01

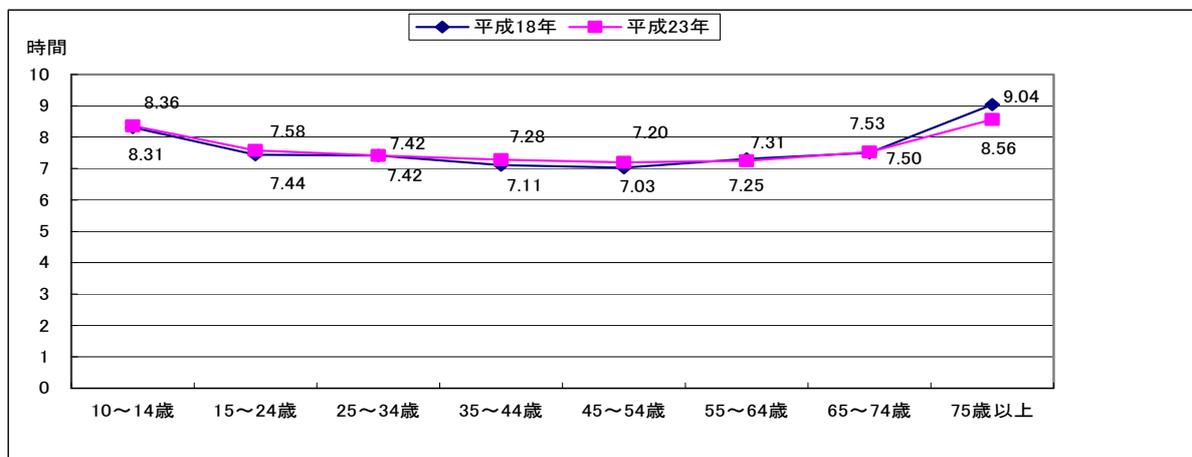
(2) 睡眠

睡眠時間は7時間49分(全国7時間42分)となっており、男性は7時間52分、女性は7時間46分と男性が6分長くなっている。

睡眠時間を前回調査（平成18年）と比べると、6分の増加となっており、年齢階級別にみると、55～64歳、75歳以上を除くすべての年齢階級で長くなっている。

睡眠時間を曜日別にみると、1日（午前0時から起算する24時間）のうち、平日が7時間40分、土曜日が8時間3分、日曜日が8時間17分となっており、平日に比べ日曜日は27分長くなっている。

図1 年齢階級別睡眠時間（平成18年、23年）一週全体

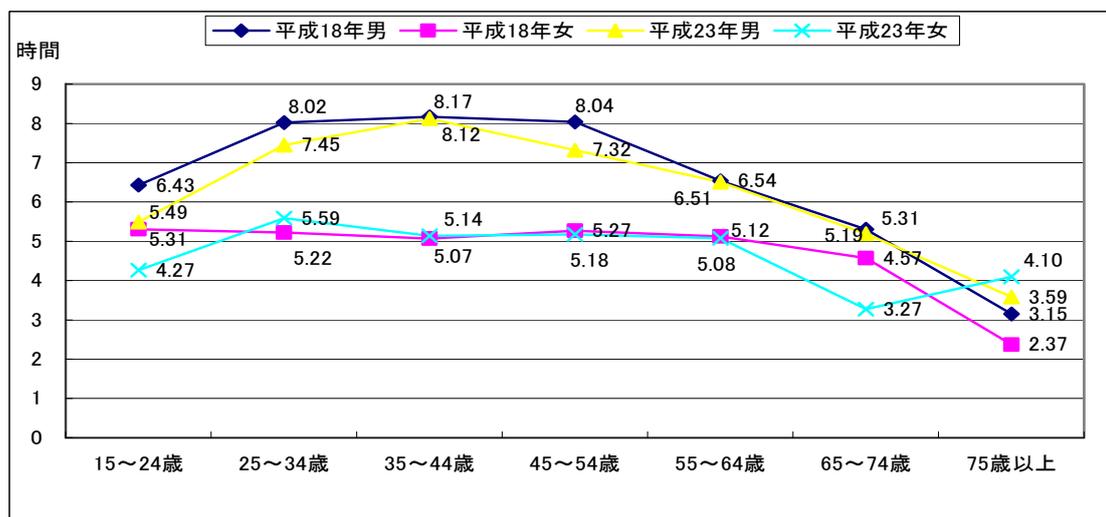


(3) 仕事

有業者の仕事時間は男性が7時間10分(全国:6時間56分)、女性が5時間9分(同:4時間50分)で、前回調査(平成18年)と比べると、男性が15分の減少、女性が7分の減少となっている。

男女、年齢階級別にみると、男性は35～44歳が8時間12分ともっとも長く、女性は25～34歳が5時間59分と最も長くなっている。

図2 男女、年齢階級別仕事時間(平成18年、23年)一週全体、有業者



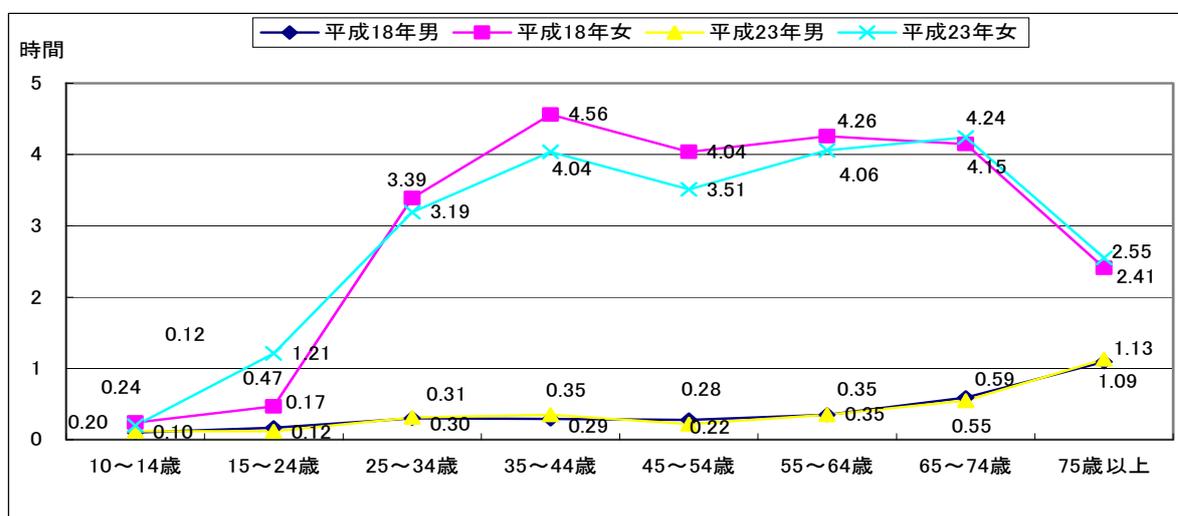
(4) 家事関連

家事関連時間は、2時間2分(全国2時間10分)で、男性が34分(同:42分)、女性が3時間22分、(同:3時間35分)と男女の間に大きな差が見られる。

男女別、年齢階級別にみると、男性は65歳以上の年齢階級で1時間前後と長くなっている。一方、女性は35～74歳で4時間前後と長く、特に65～74歳で4時間24分と最も長くなっている。

また、家事関連時間を男女別に前回調査(平成18年)と比べると、男性は横ばい、女性は8分の減少となっている。

図3 男女、年齢階級別家事関連時間(平成18年、23年)一週全体



(5) 休養等自由時間活動及び積極的自由時間活動

休養等自由時間活動の時間は4時間1分(全国3時間58分)、積極的自由時間活動の時間は1時間12分(同:1時間14分)と前回調査(平成18年)と比べると、休養等自由時間活動の時間は20分の増加、積極的自由時間活動の時間は5分の減少となっている。

男女、年齢階級別にみると、休養等自由時間活動は男女の間で大きな差は見られないが、25～34歳、75歳以上で男性が30分近く長くなっている。

また、積極的自由時間活動の時間は全ての年齢階級で男性が女性より20分以上長く、特に、10～14歳、75歳以上では50分以上長くなっている。

図4-1 男女、年齢階級別休養等自由時間活動の時間一週全体

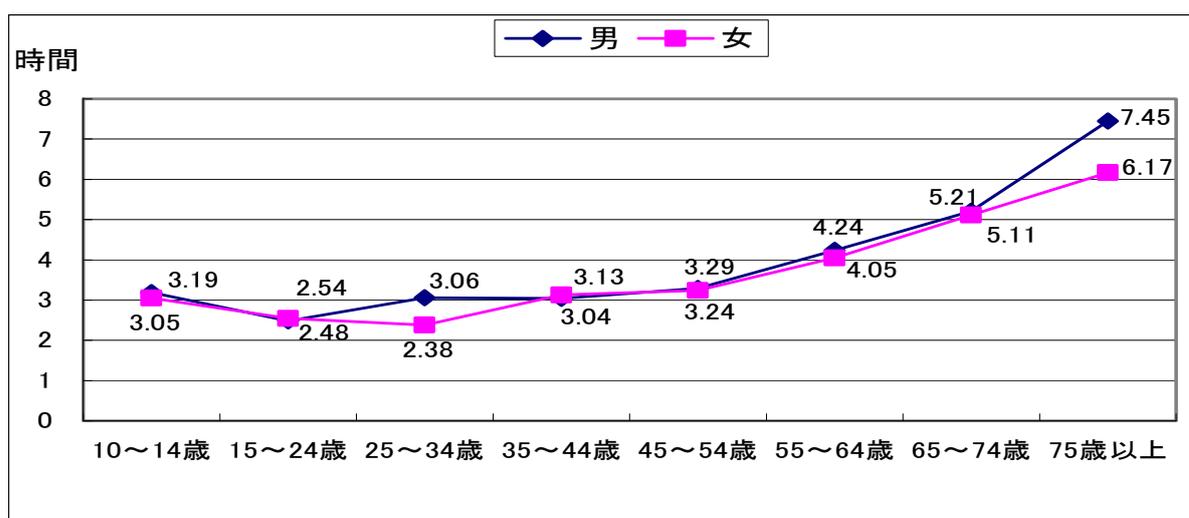
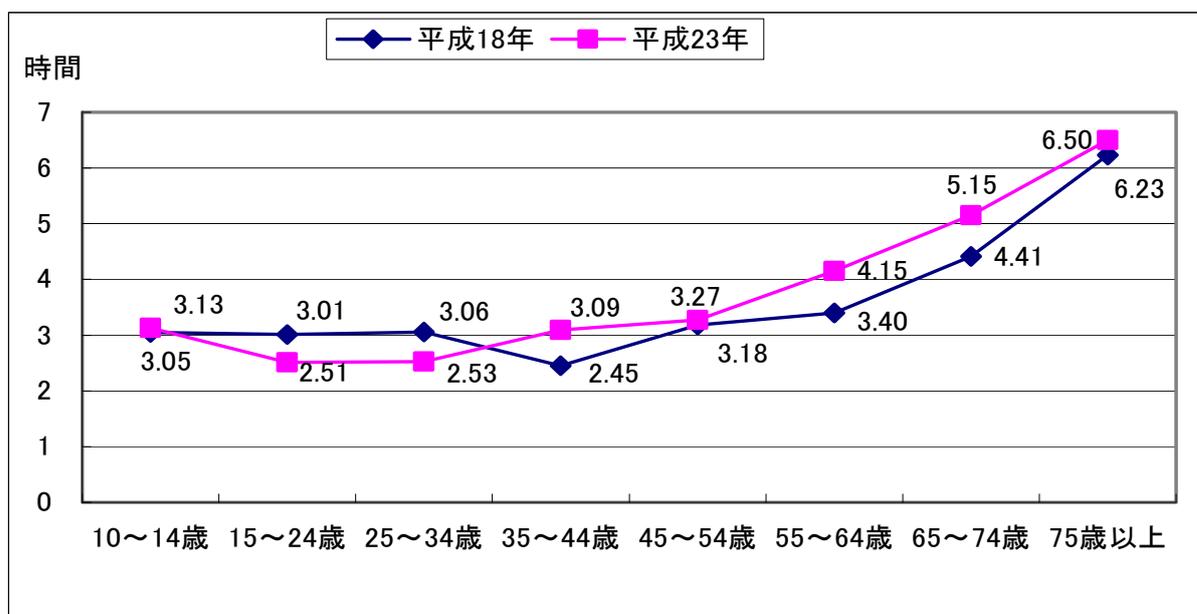


図4-2 年齢階級別休養等自由時間活動の時間(平成18年、23年)一週全体



注) 休養等自由時間活動・・・テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ

図4-3 男女、年齢階級別積極的自由時間活動の時間一週全体

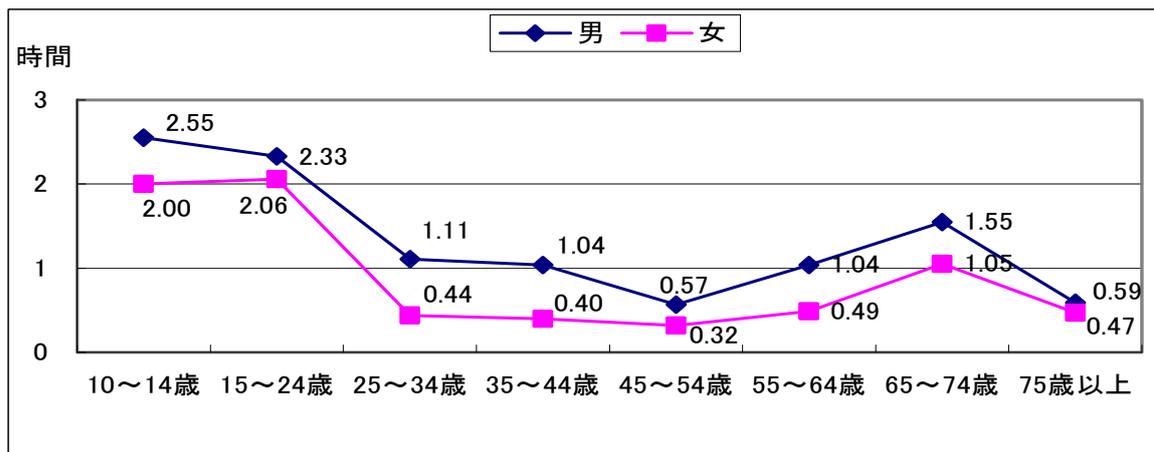
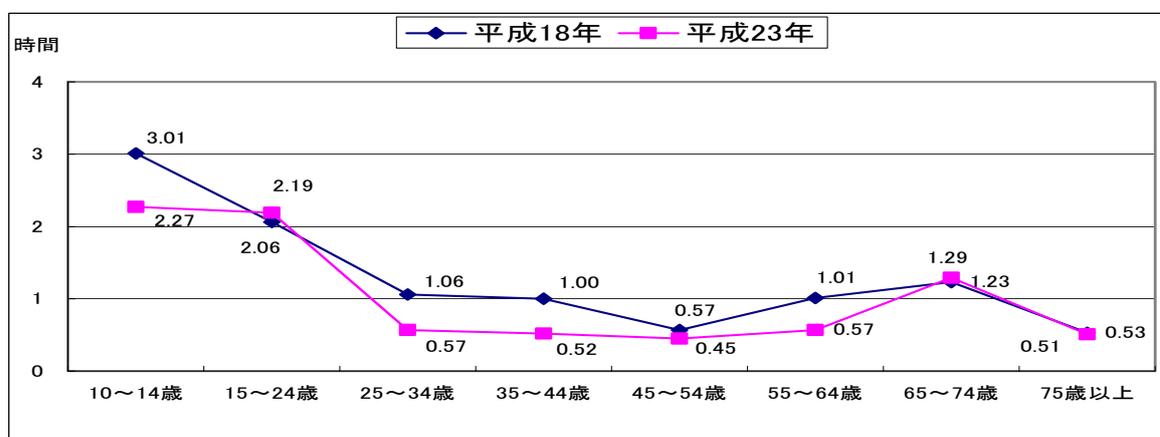


図4-4 年齢階級別積極的自由時間活動の時間（平成18年、23年）一週全体

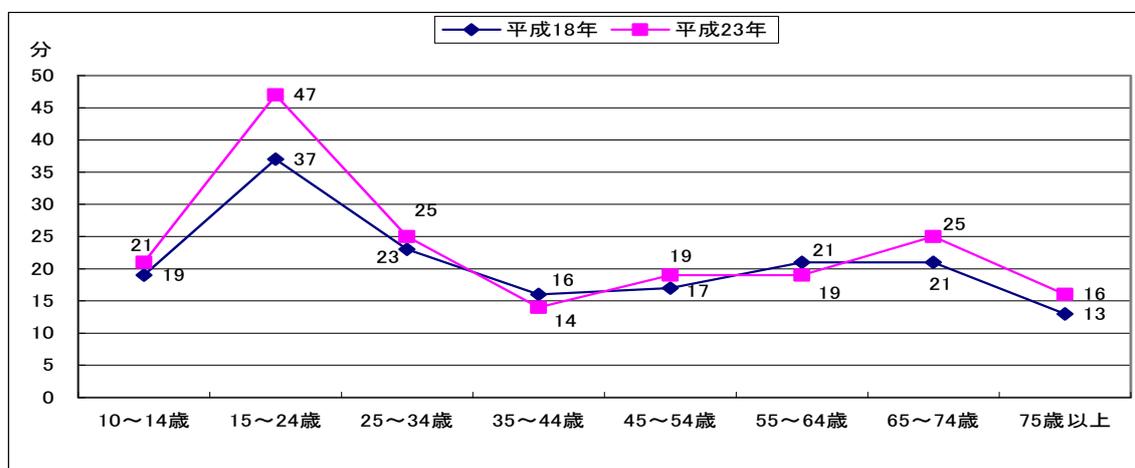


注) 積極的自由時間活動・・・学習・自己啓発・訓練(学業以外)、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動

(6) 交際・つきあい

交際・つきあいの時間は22分(全国19分)で、前回調査(平成18年)と比べると、1分の増加となっている。

図5 年齢階級別交際・つきあい時間(平成18年、23年)一週全体



2 各種属性別にみた生活時間

(1) 在学者

在学者の学業時間をみると、中学生は5時間52分と最も長く、次いで高校生が5時間47分などとなっている。睡眠時間は小学生が8時間57分と最も長く、次いで中学生が8時間14分などとなっている。食事時間は、小学生が1時間36分と最も長く、次いでその他の在学者が1時間34分などとなっている。

表2 男女、在学する学校の種類別学業時間一週全体、在学者

(時間、分)

	石川県			全 国		
	学 業	睡 眠	食 事	学 業	睡 眠	食 事
在学者総数	5.25	8.13	1.30	5.06	8.05	1.28
小 学 生(10歳以上)	4.57	8.57	1.36	5.05	8.58	1.37
中 学 生	5.52	8.14	1.31	5.55	8.09	1.27
高 校 生	5.47	7.41	1.23	5.41	7.34	1.25
その他の在学者	3.56	8.25	1.34	3.55	7.49	1.26

(2) 夫と妻

子供のいる世帯のうち、共働き世帯（夫も妻も有業の世帯。以下同じ）及び夫が有業で妻が無業の世帯について、夫と妻の生活時間をみると、共働き世帯の夫は1次活動時間が9時間58分、2次活動時間が8時間49分、3次活動時間が5時間13分で、夫が有業で妻が無業の世帯の夫に比べ1次活動時間は3分、3次活動時間は38分長くなっているが、2次活動時間は41分短く、このうち家事関連時間は7分短くなっている。

共働き世帯の妻は1次活動時間が9時間58分、2次活動時間が9時間26分、3次活動時間が4時間51分で、夫が有業で妻が無業の世帯の妻に比べ1次活動時間は29分、3次活動は1時間4分短く、2次活動時間は1時間32分長くなっており、妻の生活時間は共働きか否かにより大きな差が見られる。

表3 共働きか否か別、夫と妻の生活時間一週全体、夫婦と子供世帯

(時間、分)

		共働き世帯						夫が有業で妻が無業の世帯					
		1次活動	2次活動	仕事	家事関連	うち 育児	3次活動	1次活動	2次活動	仕事	家事関連	うち 育児	3次活動
石川 県	夫	9.58	8.49	7.37	0.32	0.07	5.13	9.55	9.30	8.08	0.39	0.16	4.35
	妻	9.58	9.26	4.51	4.10	0.29	4.36	10.27	7.54	0.00	7.54	2.34	5.40
全 国	夫	10.01	9.06	7.36	0.37	0.11	4.53	10.03	9.07	7.21	0.46	0.19	4.51
	妻	9.55	9.31	4.12	4.50	0.43	4.34	10.18	7.47	0.02	7.43	2.00	5.55

3 主な行動の平均時間

(1) 起床

平均起床時刻を曜日別にみると、平日が6時34分、土曜日が6時56分、日曜日が6時48分となっており、平日に比べ土曜日は22分、日曜日は14分遅くなっている。

男女別にみると、すべての曜日で女性が早くなっている。

また、15歳以上の人について就業状態別にみると、男性は土曜日を除き無業者が有業者より遅くなっており、女性は全ての曜日無業者が有業者より早くなっている。

(2) 朝食開始

平均朝食開始時刻を曜日別にみると、平日が7時10分、土曜日が7時23分、日曜日が7時30分となっており、平日に比べ土曜日は13分、日曜日は20分遅くなっている。

男女別にみると、すべての曜日で男性が女性より早くなっている。

また、15歳以上の人について就業状態別にみると、男性は平日で有業者が無業者より21分早くなっており、日曜日では有業者が無業者より10分遅くなっている。

女性は平日で有業者が無業者より早く、土曜日及び日曜日は有業者が無業者より遅くなっている。

なお、朝食をした人の割合（行動者率）は平日が86%、土曜日が81.5%、日曜日は81.8%となっており、平日に比べ土曜日及び日曜日が低くなっている。

また、男女共にすべての曜日で、有業者が無業者より低くなっている。

(3) 夕食開始

夕食開始時刻を曜日別にみると、平日が19時8分、土曜日が18時48分、日曜日が18時47分となっており、平日に比べ土曜日は20分、日曜日は21分早くなっている。

男女別にみると、すべての曜日で女性が早くなっている。

また、15歳以上の人について就業状態別にみると、男女ともすべての曜日で無業者が有業者より早くなっている。

(4) 就寝

平均就寝時刻を曜日別にみると、平日が23時6分、土曜日が23時2分、日曜日が22時48分となっており、平日に比べ土曜日は4分、日曜日は18分早くなっている。

男女別にみると、日曜日を除き女性が男性より早くなっている。

また、15歳以上の人について就業状態別にみると、男女ともすべての曜日で無業者が有業者より早くなっている。

(5) 出勤・帰宅

平均出勤時刻及び仕事からの平均帰宅時刻をみると、出勤は8時19分（全国8時26分）、帰宅は18時45分（全国18時56分）、となっており、出勤・帰宅とも全国平均より早くなっている。

男女別にみると、男性は出勤が女性より早く、帰宅は女性より遅くなっている。

表4 平均時刻（起床、朝食、夕食、就寝）

		平均起床時刻(時：分)			平均朝食時刻(時：分)			平均夕食時刻(時：分)			平均就寝時刻(時：分)		
		平日	土曜日	日曜日	平日	土曜日	日曜日	平日	土曜日	日曜日	平日	土曜日	日曜日
石川 県	総数	6:34	6:56	6:48	7:10	7:23	7:30	19:08	18:48	18:47	23:06	23:02	22:48
	男	6:43	7:00	6:49	7:07	7:23	7:26	19:19	18:54	18:57	23:13	23:06	22:45
	女	6:25	6:51	6:46	7:12	7:24	7:33	18:56	18:42	18:39	22:59	22:59	22:51
有 業 者	総数	6:35	7:00	6:49	7:04	7:24	7:30	19:26	19:00	18:55	23:25	23:26	23:08
	男	6:42	7:02	6:50	7:01	7:22	7:31	19:39	19:02	19:00	23:30	23:25	23:00
	女	6:26	6:58	6:46	7:08	7:25	7:29	19:30	18:57	18:48	23:19	23:28	23:08
無 業 者	総数	6:30	6:43	6:45	7:21	7:21	7:28	18:37	18:28	18:36	22:37	22:35	22:30
	男	6:43	6:50	6:52	7:22	7:22	7:21	18:32	18:29	18:32	22:35	22:17	22:17
	女	6:23	6:39	6:41	7:20	7:21	7:32	18:39	18:27	18:29	22:38	22:29	22:37
全 国	総数	6:37	7:08	7:17	7:10	7:33	7:41	19:06	18:51	18:44	23:15	23:17	23:06
	男	6:46	7:19	7:28	7:05	7:31	7:38	19:17	18:56	18:49	23:19	23:19	23:06
	女	6:28	6:59	7:07	7:15	7:35	7:43	18:55	18:45	18:41	23:11	23:15	23:07

表5 男女、主な行動の平均時刻－平日、有業者

都道府県	総 数			男			女		
	15歳以上人口 (千人)	平均時刻 (時:分)		15歳以上人口 (千人)	平均時刻 (時:分)		15歳以上人口 (千人)	平均時刻 (時:分)	
		出勤	仕事 からの 帰宅		出勤	仕事 からの 帰宅		出勤	仕事 からの 帰宅
石川 県	636	8:19	18:45	345	8:14	19:38	291	8:26	17:36
全 国	66,871	8:26	18:56	38,071	8:06	19:37	28,801	8:55	17:56